

・子ども・子育て支援事業計画の評価
 A:計画通りに進んでいる。 B:概ね計画通り進んでいる。 C:計画よりやや遅れている。 D:計画より大幅に遅れている。

・教育振興基本計画の評価
 5:想定を大きく上回る状況。 4:想定以上の状況。 3:想定どおりの成果。 2:改善が必要。 1:見直しが必要

基本理念	基本目標	基本方針	No.	実施事業	担当課	事業内容	取り組み・成果	評価	教育振興基本計画			相違の理由	
									取組・事業名	具体的な到達目標	内部評価		
ともに支え合い 子どもの笑顔あふれる香美市	1. 子どもの教育・保育事業の充実												
	(1) 教育・保育事業の充実												
				2	保育所運営の充実	教育振興課 (幼保支援班)	①市内8か所で実施します。また、適正規模の保育所での保育実施を検討します。 ②正規職員を最低基準数となるように雇用します。 ③なかよし・あけぼの・美良布・大柵保育園・私立ひまわり保育園で11時間以上開所を継続実施するとともに、平成27年度から新たに片地・新改保育園で実施します。 土曜日の11時間開所について、あけぼの・美良布保育園で継続実施するとともに、以下の保育所において実施します。 平成27年度～：私立ひまわり保育園 平成28年度～：なかよし・大柵保育園 平成29年度～：片地・新改保育園 ④研修内容を充実させ、職員の質の向上に努めます。	①市内7か所で実施しています。適正規模に満たなかった保育所(若藤・双葉保育園)については、平成29年度も引き続き休園としました。 ②平成29年度は前年度末退職者5名に対し4名の新規採用となっています。 ③平日の11時間以上開所は継続実施しています。土曜日の11時間開所については、計画通りの実施ができませんでした。なお、大柵保育園の土曜日の開所時間は、平成29年度より7:30～12:30の5時間としました。 ④香美市保育職員研修を各部会で年4回延べ80回実施し、そのうち県主催の専門研修は12回延べ91人が参加した他、部会以外でも県など外部主催の研修へ21回、延べ46人が参加しました。また、県の実施する基本研修へは各対象時期に参加しています。特別支援保育コーディネーターによるティーチャーズ・トレーニングは8回、延べ40名参加しています。また、28年度のフォローアップを1回、5名参加により実施しました。	C	保育職員の研修	・研修会に占める外部専門家による研修の割合が60%以上となるよう取り組む。 ・計画に基づく事業達成率70% 事業計画の中間見直しを実施。H29年度実施計画の片地保育園0歳児保育を実施、土曜日11時間保育の未実施園(なかよし保育園)での実施を検討。	4 4	教育振興基本計画では、本項目を「保育職員の研修」と「香美市子ども子育て支援事業計画の実施」とに分けており、「保育職員の研修」については、子ども・子育て支援事業計画についても、計画通りという評価ができます。また、「香美市子ども子育て支援事業計画の実施」について、教育振興基本計画では、計画全体の達成率や子ども・子育て会議における点検・評価を指標としているため、評価4としていましたが、本計画では、③土曜日保育の開所について、計画通りの進捗となっていないため、Cと評価しました。
	(2) 多様なニーズに合わせた環境の整備												
				9	家庭支援推進事業	教育振興課 (幼保支援班)	現在、なかよし、あけぼの保育園で実施しています。 対象児童が増加、また、各家庭の抱える問題が多様化するなかで、適切な支援を行っていきけるよう、全園家庭支援員の加配に努めます。	なかよし、あけぼの保育園に家庭支援推進保育士を配置しました。家庭からの相談を受けたり、家庭訪問を行なうことで、児童の心身の健全な発達のための支援を保健師等と連携をとりながら行いました。	B	子育て専門家支援 家庭支援推進事業	・支援を必要とする人が支援を必要とするとき、十分な対応ができる体制をつくる	4	教育振興基本計画では、支援を必要とする家庭へ必要とする手助けができた点を評価し、内部評価を4としております。本計画では、全園への家庭支援員の加配を努力することとしておりますが、なかよし、あけぼの保育園の2園のみとなっていること、しかしながら支援を必要とする家庭・児童への支援は園長・担任により実施できたことからB評価としました。
			11	放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ) <地域子ども・子育て支援事業>	教育振興課 (学校教育班)	①専用施設ではない、施設の規模と比べて児童数が多い、小学校区に施設がない等の放課後児童クラブについては、創設等の施設整備を検討します。 ②指導員の研修制度を導入していきます。 ③地域の要望に応じて、放課後児童クラブの開所時間の延長について検討します。 目標 ・①について、施設整備の必要性を検討し、整備が必要であると判断された放課後児童クラブについては、学校用地内への整備を基準として、順次創設・改築等を実施していきます。 ・②について、指導員の資質向上と地位の確立のため、研修制度を導入していきます。	①山田小、片地小学校区の児童クラブについて建設計画を検討。 ②高知県が開催する放課後児童支援員認定資格研修を4名受講。 ③開所時間の延長をしていない児童クラブに対し延長について検討してもらいました。	C	放課後児童クラブの充実	・8クラブすべてに認定資格保有者を確保する。 ・施設建築が可能な環境を整備する。	3	本計画では、③開所時間の延長をしていない児童クラブに対し延長について検討してもらいましたが、結果的に延長ができていないため、C評価となっています。	

・子ども・子育て支援事業計画の評価
 A:計画通りに進んでいる。B:概ね計画通り進んでいる。C:計画よりやや遅れている。D:計画より大幅に遅れている。

・教育振興基本計画の評価
 5:想定を大きく上回る状況。4:想定以上の状況。3:想定どおりの成果。2:改善が必要。1:見直しが必要

基本理念	基本目標	基本方針	No.	実施事業	担当課	事業内容	取り組み・成果	評価	教育振興基本計画			相違の理由
									取組・事業名	具体的な到達目標	内部評価	
			12	放課後子ども教室	教育振興課(学校教育班)	保護者の就労等の状況を問わず、放課後、すべての児童が等しく学び、遊べる場を提供します。	舟入小・片地小・山田小で実施しました。	C	放課後子ども教室推進事業	・子ども教室の実施を希望する学校があれば、全ての学校で実施を検討する。	4	本計画では、全児童及び全小学校での実施を目指す目標であるため、C評価としています。
			13	放課後子ども総合プラン	教育振興課(学校教育班)	放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携を目指し、取組を検討していきます。また、必要に応じて、余剰教室の活用を含め計画的に整備するとともに、一体型の放課後児童クラブ及び子ども教室の目標を8か所とします。	連携については、子ども教室の活動が盛んな舟入小において継続して検討しました。	C				
			14	一時預かり事業 〈地域子ども・子育て支援事業〉	教育振興課(子育て支援センター)	①子育てセンターなかよし・子育てセンターびらひの2か所で実施します。 ②広報活動を充実させます。	①子育てセンターなかよし・びらひで実施利用する理由はなかよしでは「私的リフレッシュ」びらひでは「非定型(仕事、通院等)」が多くなっています。 利用延べ人数 子育てセンターなかよし 750人 子育てセンターびらひ 313人 ・一時預かりを断った人数(なかよし120件/びらひ21件) ・緊急預かり人数(なかよし22人/びらひ30人) ・一時預かり希望者の増加や緊急預かり、配慮が必要な方の受け入れに対応するため体制の整備や、在園児との生活を重視ししなければいけない幼児については保育園の協力を得て一緒に過ごしました。 ・児童の心身の発達を促し、保護者とも関わりを持ちながら、親子を支援しました。 ②広報誌に一時預かり事業の情報を掲載した。関係機関と連携し乳児家庭全戸訪問事業や乳幼児健診等さまざまな機会を利用し案内を配付し、周知しました。	B	一時預かり	・一時預かり数年間750人以上を維持する。	4	教育振興基本計画では、到達目標に達していたため、評価4としております。本計画では、計画通りに実施できていますが、利用日が重なりお断りする場合や、緊急預かりについては、柔軟に対応しましたが、すべての利用者のニーズに対応できていない状況もあります。利用者のニーズにこたえるには、体制の整備などまだ改善の余地があると考え、本計画では評価Bとしています。
						目標						

・子ども・子育て支援事業計画の評価
 A:計画通りに進んでいる。B:概ね計画通り進んでいる。C:計画よりやや遅れている。D:計画より大幅に遅れている。

・教育振興基本計画の評価
 5:想定を大きく上回る状況。4:想定以上の状況。3:想定どおりの成果。2:改善が必要。1:見直しが必要

基本理念	基本目標	基本方針	No.	実施事業	担当課	事業内容	取り組み・成果	評価	教育振興基本計画			相違の理由
									取組・事業名	具体的な到達目標	内部評価	
2. 子どもの健やかな成長の支援												
(2) 子どもの健やかな心身の育成												
			25	食育の推進	教育振興課 (子育て支援センター)	①作物づくり等とおして、食育を推進します。 ②子育てセンターでの食育講座と栄養相談を実施します。 目標 ・栄養士による子育てセンターでの食に関する講座を実施します。 ・栄養育児相談を実施します。 ・「食育だより」を発行します。 ・食生活改善推進員や関係機関等と連携し事業を実施します。	・栄養士による子育てセンターでの食に関する講座の開催(9/年)(再掲:食生活改善推進員との連携 4/年 家族のための食育講座 2/年) ・妊婦を対象としたマタニティママの集いで食に関する講座を実施(3/年) ・育児相談での食に関する相談の実施(1/月) 随時相談も受け付けています。 ・「食育だより」の配布(1/月) ・健康介護支援課が実施する「もぐもぐ教室」(離乳食教室)の情報発信 ・食育推進計画の推進をおこないました	B	①子育てに関する講習会 ②マタニティママの集い ③子育てに関する相談・援助	①子育てひろばに満足している利用者の割合85%以上を維持する。 ②年間参加延べ数50人以上 ③相談・援助件数年間480件以上を維持する。	3 3 4	教育振興基本計画では、本項目を「子育てに関する講習会」「マタニティママのつどい」「子育てに関する相談・援助」とに分けており、それぞれ計画通り進捗していると考えております。本計画では、計画通りに取り組みを進めていますが、更に食育の推進について検討する余地があると考えており、評価Bとしています。
				食育の推進	教育振興課 (学校教育班)	①料理教室(栄養担当課)を実施します。 ②栄養教諭による食の指導を実施します。 ③生活習慣病の予防を推進します。 ④香美市食育推進計画を推進します。 目標 ・食と健康について、栄養担当課との連携をとりながら香美市食育推進計画を全校で進めます。 ・スーパー食育スクール事業の実践校を増やします。 ・生活習慣病防止を意図した料理教室を実施します。	①全小中学校でヘルスメイト食育事業を実施しました。 ②全小中学校に給食指導を実施しました。 ③「食育ノート」「食育ハンドブック」の活用を進めました。 ④継続して小5と中2に食生活に関するアンケート調査を実施しました。	B	食育の推進 香美市食育推進計画	香美市食育推進計画指標の達成	4	教育振興基本計画では、平成30年度末の達成を目指して、年度ごとの進捗にあわせた項目に絞って評価しています。平成29年度の項目は、中学生はすでに30年度末の目標値を達成し、小学生も目標値には届いていないが増加をしていた。さらに、児童からの発信による食に関するプロジェクトが提案されたこともあり、内部評価は想定以上の4としました。本計画では、予定していた事業は概ね計画通り実施できましたが、スーパー食育スクール事業の実践校は、前年度の4校から増やさず現状維持としたため、評価Bとしています。

・子ども・子育て支援事業計画の評価
 A:計画通りに進んでいる。B:概ね計画通り進んでいる。C:計画よりやや遅れている。D:計画より大幅に遅れている。

・教育振興基本計画の評価
 5:想定を大きく上回る状況。4:想定以上の状況。3:想定どおりの成果。2:改善が必要。1:見直しが必要

基本理念	基本目標	基本方針	No.	実施事業	担当課	事業内容	取り組み・成果	評価	教育振興基本計画			相違の理由
									取組・事業名	具体的な到達目標	内部評価	
			28	スポーツ振興	教育振興課 (学校教育班)	①高知県体力・運動能力、生活実態等調査を実施します。 (香美市内小中学校全学年実施) ②基本的な生活習慣の確立を促進します。 ③体力と健康、食育を関連させた取組を推進します。(よさこい健康プランの実施) 目標 ・体力の値が男女とも全国平均値以上を目指します。 ・「健康な生活をおくるための運動習慣(アンケート項目)が付いている」について、80%以上を目指します。	①高知県体力・運動能力、運動実態調査を全小中学校全学年で実施。 ②キャリア教育の視点とあわせて、基本的な生活習慣の確立に継続的に取り組んできています。 ③「めざせ!元気いっぱいこうちの子ども」「よりよい生活習慣のために」を全小中学校で活用。	B	体力の向上	・本年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、全国平均に達するようにする(昨年度小5男子-2.3、女子-0.1、中2男子-1.6、女子-1.2) ・本年度調査において全国平均に達するようにする(小5男子-71.2時間、女子-47.7時間、中2男子-140.8時間、女子-87.7時間)	3	相違なし
					生涯学習振興課 (スポーツ班)	スポーツ少年団員数の減少については、同様の課題を抱えている市町村もあるので、高知県が計画しているエリアネットワーク事業を活用し、近隣市町村と連携したスポーツ活動の発展に努めます。 目標 ・スポーツ少年団との連携のもと、引き続きスポーツ活動参加への啓発を行います。 ・一定の人数が必要な団体種目においては、市内及び近隣市町村との連合チームを組むことも視野に入れ、競技の維持に努めるとともに、スポーツ活動の発展を目指します。	・エリアネットワーク事業を活用して小学生を対象とした水泳・テニスの各教室を開催した。特に水泳教室については、送迎バスを出したことで、子どもだけの参加がしやすかったと思われ、香南市からも参加者があり、3日間とも欠席者がでませんでした。 ・少年スポーツ交流大会においては、チームが組めない個人での参加者を、スポーツ少年団チームに加えて競技をおこない、スポーツ参加のきっかけづくりと少年団との交流が図りました。	B	生涯スポーツの推進	・各種大会やスポーツイベントを開催する事により、スポーツに興味を持ってもらえる場の提供数の増加を図る。 ・改修・改築後の施設利用促進を図り、利用者数を増やす。	3	相違なし
				(3) 特別な支援を必要とする子どものニーズに応じた教育環境づくり								
			30	特別支援教育	教育振興課 (学校教育班)	①保育所や幼稚園との連携の強化を図ります。 ②就学に向けて保護者との面談を実施します。 ③教育相談や巡回相談の充実を図ります。 ④香美市特別支援教育研修を実施します。 ⑤気になる子どもの保幼小中高でのきめ細やかな引継ぎを実施します。(引継ぎシートの活用) ⑥専門家による教職員支援及び家庭教育支援員による家庭教育支援を実施します。 ⑦保護者との面談を密にし、子どもの発達について理解を深めます。 目標 ・ケーススタディ等により児童生徒理解が深まり、通常の教育実践に活用できたと回答できる教職員が、平成26年度より増加するよう取り組みます。(研修後のアンケート調査等) ・ユニバーサルデザインに基づく誰でも「分かる」「できる」授業づくりを通して、子どもが安心した学校生活を送ることができるように、一貫した支援体制を確立させていきます。	①特別支援教育学校コーディネーターが調整役を担い、連携を強化しました。 ②③相談事業の周知が進み、効果的な活用が進みました。就学に向けての保護者面談も計画的に実施しました。 ④コーディネーター研修4回・支援員研修5回・管理職研修1回・セミナー2回・専門研修3講座。各園・各校でも2~3回アセスメント研修実施しました。 ⑤引き継ぎシートを活用(41名)しました。 ⑥実践交流事業・サポート事業を活用。家庭教育支援員の継続して配置しました。 ⑦特別支援教育学校コーディネーターを中心に対応しています。	B	インクルーシブ教育の推進 ①支援体制の確立 ②県立山田養護学校との連携 ③関係各機関との連携した研修と支援 ④不登校対策 ⑤いじめ対策・問題行動対策	①特別な教育的支援が必要な児童生徒の個別の指導計画作成100% ②全小・中学校は特別な教育的支援についての研修や教育活動等で連携できている。保育所は、保育コーディネーターを通じて連携できている。 ③家庭教育支援員(専任)の継続配置。支援会議での具体的な手立てが提案できる。 ④不登校出現率が小0.75%、中4.25%を下回る。※(H27年度は中学校が4.34%だったため。) ⑤いじめ解決率100%「いじめはどんなことがあってもいけない」100%	①-3 ②-4 ③-4 ④-2 ⑤-3	関連項目から総じてB評価としました。

・子ども・子育て支援事業計画の評価
 A:計画通りに進んでいる。 B:概ね計画通り進んでいる。 C:計画よりやや遅れている。 D:計画より大幅に遅れている。

・教育振興基本計画の評価
 5:想定を大きく上回る状況。 4:想定以上の状況。 3:想定どおりの成果。 2:改善が必要。 1:見直しが必要

基本理念	基本目標	基本方針	No.	実施事業	担当課	事業内容	取り組み・成果	評価	教育振興基本計画			相違の理由
									取組・事業名	具体的な到達目標	内部評価	
			31	特別支援保育	教育振興課 (幼保支援班)	①特別支援保育コーディネーターを配置します。 ②障害児対応の加配保育士を増員します。 目標 ・①について、特別支援保育コーディネーターを増員し、特別な支援を要する子どもの保育の質を向上します。 ・②について、肢体不自由児・発達障害児等の集団保育に必要な職員を加配します。 ・無資格職員を保育士資格のある職員に替えていきます。	①特別支援保育コーディネーター（1名）を配置し、市内の保育所や幼稚園での支援を行い、小学校への接続へも貢献しました。 ②可能な範囲で職員を加配し、支援の必要な子どもをサポートしました。	B	子育て専門家支援 家庭支援推進事業	・支援を必要とする人が支援を必要とするとき、十分な対応ができる体制をつくる	4	教育振興基本計画では、支援を必要とする家庭へ必要とする手助けができた点を評価し、内部評価を4としております。本計画では、支援を必要とする家庭・児童への支援はできましたが、コーディネーターの増員ができていない点及び保育士資格の無い職員が加配にいたったケースがあったことからB評価としており、訂正はありません。
			33	問題を抱える子どもの自立支援事業	教育振興課 (学校教育班)	①スクールソーシャルワーカーの配置による児童生徒、家庭支援を行います。 ②香美市教育支援センターの充実を図ります。 ③スクールカウンセラーの配置による児童生徒、家庭支援を行います。 ④児童虐待に関する研修を実施します 目標 ・小中学校とも不登校の出現率が平成26年度に対して減少することを目指します。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが特別な教育的支援の必要な子ども、家庭10人に対し、1人となるよう配置することを目指します。	①②スクールソーシャルワーカー3名配置により、全園・小中学校に対応しています。 ②アウトリーチ型スクールカウンセラーを継続配置。 ③全小中学校にスクールカウンセラーを配置。 ④全小中学校で、児童虐待に関する研修を実施。	B	インクルーシブ教育の推進 ①支援体制の確立 ②県立山田養護学校との連携 ③関係各機関との連携した研修と支援 ④不登校対策 ⑤いじめ対策・問題行動対策	①特別な教育的支援が必要な児童生徒の個別の指導計画作成100% ②全小・中学校は特別な教育的支援についての研修や教育活動等で連携できている。保育所は、保育コーディネーターを通じて連携できている。 ③家庭教育支援員（専任）の継続配置。支援会議での具体的な手立てが提案できる。 ④不登校出現率が小0.75%、中4.25%を下回る。※（H27年度は中学校が4.34%だったため。） ⑤いじめ解決率100%「いじめはどんなことがあってもいけない」100%	①-3 ②-4 ③-4 ④-2 ⑤-3	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの配置、また児童虐待に関する研修は計画通りだが、支援が必要な子どもは減らず、不登校が減少していない実態があるため、B評価としました。（計画が遅れているわけではありません。）

・子ども・子育て支援事業計画の評価
 A:計画通りに進んでいる。B:概ね計画通り進んでいる。C:計画よりやや遅れている。D:計画より大幅に遅れている。

・教育振興基本計画の評価
 5:想定を大きく上回る状況。4:想定以上の状況。3:想定どおりの成果。2:改善が必要。1:見直しが必要

基本理念	基本目標	基本方針	No.	実施事業	担当課	事業内容	取り組み・成果	評価	教育振興基本計画			相違の理由
									取組・事業名	具体的な到達目標	内部評価	
3. みんなが支え合い、子育てしたくなるまちの推進												
(1) 子育て支援の充実												
			34	地域子育て支援拠点事業 ＜地域子ども・子育て支援事業＞	教育振興課 (子育て支援センター)	①子育てセンターなかよし・びらふで実施します。 ②広報活動を充実させます。 <hr/> 目標 <hr/> ・親子が自由に遊べる場として、「なかよしひろば(子育てセンターなかよし)」、「にこにこひろば(子育てセンターびらふ)」を開催しています。「にこにこひろば」は、月・水・金の開催となっておりますが、平成27年度から、平日毎日開催のニーズに対応できるよう体制を整備します。 ・平成27年度から、ホームページや広報等を活用して情報発信し、周知に努めます。 ・平成27年度から、対象者にアンケートを実施し、ニーズの把握に努めます。	①子育てひろばの開催(月～金) 子育てひろば親子延べ人数 子育てセンターなかよし 6,074人 子育てセンターびらふ 1,600人 <hr/> ・子育て講座の実施・子育て講演会の実施84回開催 ・子育てセンターの運動会を土曜日に開催し、父親や家族が参加しやすいようにしました。 ・園庭開放の支援 ・子育てセンターを利用していない子育て家庭への訪問支援を実施 ・保護者のニーズを把握するため、子育てセンターの利用者を対象に、アンケートを年2回実施⇒子育てひろばの満足度84.9% ・高知市、南国市の子育てひろばの視察 ○関係機関との連携 ・乳児健診でのちらしの配布・発達障害児への支援・要保護児童地域対策協議会への出席・母子保健担当部署との連絡会や連携 <hr/> ②広報誌に子育てセンターの記事を掲載し周知を図った。また、関係機関と連携し乳児家庭全戸訪問事業や乳幼児健診等様々な機会を活用し周知しています。	A	子育てひろば 子育てに関する講習会	子育てひろばに満足している利用者の割合85%以上を維持する。(5段階評価の5)	3 3	相違無し
			36	育児ストレスの対応	教育振興課 (子育て支援センター)	①子育てセンターでの育児相談を実施します。 ②園庭開放での育児相談を実施します。 ③関係機関との連携の強化を目指します。 ④支援者の相談対応力の向上を目指します。 <hr/> 目標 <hr/> ・今後も関係機関との連携を密にしていきます。 ・育児ストレスを緩和できるよう、職員の研修や事例検討等を通して資質向上に努めます。	① ・保育士・栄養士・保健師による子育てひろば・電話・来所相談(随時) ・子育てセンターでの育児相談(1/月) ・「ママのサポートルーム(産後サポート事業)」1/月開催 ②大柵保育園の園庭開放での育児相談(1/2月) ③④関係機関との会合や研修会等への参加	A	子育てに関する相談・援助	相談・援助件数年間480件以上を維持する	4	相違無し
			40	子育てサークルの支援	教育振興課 (子育て支援センター)	①子育てサークル交流会等を実施し、連携を充実させていきます。 ②地域で活動しているボランティア団体等と連携し、事業を実施します。 <hr/> 目標 <hr/> ・子育てサークル交流会や研修会等を継続実施し、情報を交換・共有し連携を強化します。 ・子育て講座等を活用し、民生児童委員・食生活改善推進員等と連携して事業を実施し、子育て家庭と地域とのつながりの機会をつくっていきます。	①子育てサークル交流会2回開催 ② ・子育てサークルろばみみ主催「ろばみみ会議」への参加 ・ろばみみ通信の配布、ハッピーチルドレンのちらしや子育て支援に関する研修会等の掲示をする ・香美市立図書館と連携し、絵本の読み聞かせなどを実施 ・民生児童委員に子育てセンターの紹介をする ・子育てひろばの行事へ民生委員や地域の人が参加	B	子育てサークル支援	・子育て支援団体の連携強化のための取り組みを継続する。	4	教育振興基本計画では、子育て支援団体の連携強化のための取り組みを計画通り継続できているため、評価4としています。取り組みを継続することによって、子育て支援に関わる機関や子育てサークル間の交流は深まっておりますが、更に活動に広がりを持たせるために改善の余地があると考え、本計画では評価Bとしています。

・子ども・子育て支援事業計画の評価
 A:計画通りに進んでいる。B:概ね計画通り進んでいる。C:計画よりやや遅れている。D:計画より大幅に遅れている。

・教育振興基本計画の評価
 5:想定を大きく上回る状況。4:想定以上の状況。3:想定どおりの成果。2:改善が必要。1:見直しが必要

基本理念	基本目標	基本方針	No.	実施事業	担当課	事業内容	取り組み・成果	評価	教育振興基本計画			相違の理由
									取組・事業名	具体的な到達目標	内部評価	
			41	子育て支援情報の発信	教育振興課 (子育て支援センター)	市内窓口(子育てセンター等)や保健師訪問、乳幼児健診等で子育て情報誌を配付します。 目標 ・平成27年度から、ホームページや広報等を活用して情報発信し周知に努めます。 ・転入してきた子育て家庭に対して、市民保険課の窓口で子育て支援情報誌を配布します。	・「子育ておひさま通信」を発行・配布・ホームページへの掲載(1回/月) ・「楽しい子育て応援します」の配布・ホームページへの掲載(随時) 窓口への設置、乳幼児健診、保健師訪問等さまざまな機会を活用して配布 ・「子育てガイド」を年1回更新し、窓口への設置や関係機関等から配布(転入児の家庭には健康介護支援課で配布) ・「子育てサークルガイド」を発行し、窓口への設置、子育てサークルや関係機関等で配布 ・乳児健診でおひさま通信を配布し、利用を勧めています(1回/月)	A	地域の子育て関連情報提供	・子育てひろば利用者数、相談・援助件数、一時預かり利用者数合計年間5500人以上を維持する。	3	相違無し
(2) 地域再生と地域力強化												
			45	赤ちゃんとのふれあい	教育振興課 (子育て支援センター)	①子育てセンターで高校生等と赤ちゃんとのふれあいを実施します。 ②子育てセンターでマタニティママの集いを実施します。 ③思春期保健の基盤づくりを行います。 目標 ・平成27年度からマタニティママの集いに参加しやすいよう年3回に増やします。 ・学校や関係機関と連携し思春期保健の基盤を構築し、いのちの教育等を実施します。	①③高知県立山田高校と連携し、家庭科の授業を専攻している3年生を対象に、夏休みを利用し希望者に対して「子育てサポート体験」を実施 実人数14人、延べ人数14人 ②妊婦とその家族を対象に「マタニティママの集い」を3コース/年(1コース3回)実施 実人数26人/延べ人数49人 健康介護支援課と連携し、参加者が増えています。	B	①子育てサポート体験 ②マタニティママのつどい	①参加生徒全員が子どもや子育てに対して肯定的な思いを持つ ②参加延べ人数年間50人以上	4 3	教育振興基本計画では、本項目を「マタニティママのつどい」と「子育てサポート体験」とに分けており、それぞれ計画通り進捗していると考えております。「マタニティママのつどい」は、健康介護支援課と連携し、妊娠期からの支援の流れを強化することで、参加者の増加が見込め、支援体制の強化に改善の余地があると思われます。また、「子育てサポート体験」の実施により、思春期保健の基盤が構築されつつあるので、学校や関係機関と連携し、対象者の拡大を図りたいと考えているため、本計画は評価Bとしています。
(3) 学校・家庭・地域での連携教育の推進												
			49	家庭教育の強化	教育振興課 (学校教育班)	①各校において保護者の参加による、防犯・食育・家庭学習について等の研修を行います。 ②コミュニティスクールを導入し、地域とともに家庭教育を支える仕組みをつくりまします。 目標 ・①について、各校におけるPTA 研修等で、防犯・食育・家庭学習の研修を行います。 ・②について、コミュニティスクールを導入します。(平成28年度:片地小、平成29年度:大柘小中、平成31年度までにさらに増加)	①総合的な学習や学校行事等を活用しての研修実施。防災に関する授業は5回以上、避難訓練は3回以上、全小中学校で実施。 ②片地小学校と大柘保・小・中学校が、学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールをスタートさせた。その会の中で、大柘では、「物部で育てたい力」についてそれぞれ(学校・家庭・地域)ができる取り組みについて協議をし、系統表を作成しました。	B A	②コミュニティ・スクール事業	・7校の小中学校のコミュニティ・スクールの設置 ・3校で設置準備委員会	4	教育振興基本計画の内部評価と突合せていなかったため、本計画との整合性がとれていませんでした。そのため本計画の評価BをAに訂正します。

・子ども・子育て支援事業計画の評価
 A:計画通りに進んでいる。 B:概ね計画通り進んでいる。 C:計画よりやや遅れている。 D:計画より大幅に遅れている。

・教育振興基本計画の評価
 5:想定を大きく上回る状況。 4:想定以上の状況。 3:想定どおりの成果。 2:改善が必要。 1:見直しが必要

基本理念	基本目標	基本方針	No.	実施事業	担当課	事業内容	取り組み・成果	評価	教育振興基本計画			相違の理由
									取組・事業名	具体的な到達目標	内部評価	
			50	幼稚園・保育所・小学校の教職員及び園児と生徒との交流	教育振興課(幼保支援班・学校教育班)	①校種間連携、交流教育を推進します。(保育所、幼稚園、小学校、中学校) ②児童生徒の円滑な教育の接続を推進します。(アプローチプログラム、スタートカリキュラムの実施) ③園内・校内支援体制の確立と推進 目標 ・市のすべての保育所、小学校でアプローチプログラム、スタートカリキュラムの作成、実施が行われていることを目指します。 ・保幼小中合同研修会の参加者のアンケート結果「日常の保育実践、教育実践に活用できた」について、90%以上となることを目指します。	①市内全部の小学校と保育園・私立幼稚園で交流学習を実施。また、各中学校区で、一日入学等の交流学習を実施。 ②市内全小学校で、平成30年度のスタートカリキュラムを作成。 ③園内・校内支援会を充実させ、個別のニーズに対応した支援を推進。	B	・保小連携・小中連携・小中連携教育 ・アプローチカリキュラム作成・実施 ・スタートカリキュラム実施	・各小学校区で、互恵性のある保幼小交流活動の実施。 ・保育所のアプローチカリキュラムの作成・実施。 ・全小学校で、スタートカリキュラムの作成。	3 3 4	相違なし
			52	高知工科大学との連携	教育振興課(学校教育班)	①オープンキャンパス事業を実施します。 ②インターナショナルデイを実施します。 ③学校サポーター制度を活用します。 ④小中高大の連携による理数教育を推進します。 目標 ・①について、平成27年度から小学5年生、平成29年度から中学2年生を対象に実施します。 ・②について、平成27年度から実施し、平成29年度から香美市の全学校の希望者が参加できるようにします。 ・③について、平成27年度から山田地区で活用します。平成29年度からは市内全小中学校で活用します。 ・④について、平成27年度から小学生科学教室(夏休み)、科学クラブ(鏡野中)を実施し、平成28年度から市内に拡大、平成31年度には希望する児童生徒が参加できるようにします。	①H25年度から中止 ②工科大学の留学生にも参加してもらい、小中高生を対象に、8月に実施し、小学校を中心に放課後学習等で協力いただいています。 ④香美市理科クラブを年間通して開催し、小学生と山田高校生、工科大生が理科学習を通して、交流を深めることができました。星空教室では、小中学生と工科大生、地域の方々が交流を深めることができました。	B	高知工科大学留学生との交流 ティキャンプ開催 高知工科大学学生企画による小中学校学習支援活動	参加者アンケート ・「英語」や「外国語の文化を身近に感じることができる。(肯定回答 95%) ・工科大生による学習、活動支援を継続する。	3 3	相違なし
			53	開かれた学校づくり	教育振興課(学校教育班)	①教育の日の内容を充実を図ります。 ②香美市教育振興計画と関連させて評価します。 ③香美市ふるさとプログラムを実施します。 ④コミュニティスクールの増加を目指します。 ⑤学校支援知育本部の活動を充実させます。 目標 ・教育の日の参観者増加を目指します。 ・香美市ふるさとプログラムの実施100%を目指します。 ・コミュニティスクールの増加を目指します。 ・学校支援地域本部の登録者が平成26年度の2倍となることを目指します。	①学校だより等でも呼びかけを行い、定着しています。 ②学校関係者評価委員による評価を行うことができました。 ③「龍河洞ふるさとプログラム」(市内小学3年生対象)を実施。この交流をきっかけに小中連携を深めることができました。 ④3校が学校運営協議会を設置。その他の学校も設置推進委員会で協議を重ね、年度末に5校が学校運営協議会を設置しました。 ⑤各学校の学校支援地域本部が地域学校協働本部となり、地域と学校がともに協働しようとして取り組むことができました。	B	③香美市ふるさとプログラムの実施 ④コミュニティ・スクール事業	③香美市の教育資源を活用した学習ができた。龍河洞(100%)、高知工科大学(100%)、吉井勇記念館(40%) 郷土愛への愛着小6:93%以上、中3:80%以上 ④7校の小中学校のコミュニティ・スクールの設置3校の設置準備委員会	3 4	相違なし

・子ども・子育て支援事業計画の評価
 A:計画通りに進んでいる。B:概ね計画通り進んでいる。C:計画よりやや遅れている。D:計画より大幅に遅れている。

・教育振興基本計画の評価
 5:想定を大きく上回る状況。4:想定以上の状況。3:想定どおりの成果。2:改善が必要。1:見直しが必要

基本理念	基本目標	基本方針	No.	実施事業	担当課	事業内容	取り組み・成果	評価	教育振興基本計画			相違の理由
									取組・事業名	具体的な到達目標	内部評価	
			56	子ども読書推進計画	図書館	主体的に読書に親しむ習慣を身に付けられるよう実施します。 目標 ・年代に応じた図書資料の充実を図ります。 ・親子で読書を楽しむ環境づくり（家読の推進等）を行います。 ・図書館と学校との連携体制の確立を目指します。 ・読み聞かせボランティアの養成及び活動支援の充実を図ります。 ・読み聞かせ用絵本リストの充実を図ります。 ・子ども司書養成講座の受講者数を増やし、講座内容の充実を図ります。	・学校との連携（出前授業、探求的な学習の支援 図書の貸出） ・図書館見学（生活科・総合的な学習の支援） ・職場体験学習の受け入れ（市内3中学校） ・ブックスタート事業（図書の紹介、ブックリスト、図書館だよりの配布、乳幼児向けおはなし会の実施・・・どんぐりの会） ・子ども司書は23人認定証授与。目標達成。養成講座では、ビブリオバトル、ポップ作り、読み聞かせ講座等を開催しました。 ・子ども司書認定後の活動として司書の育成・振興を図るため実践報告会に参加し活動を広めることができました。 ・読み聞かせボランティア支援（講座の開催2回、入門講座、パネルシアター作り、年齢に応じた本の紹介や情報交換）	B	図書館活動の充実	・年間1人あたりの貸出冊数3,10冊 （81,710冊÷26,379人） ・子ども司書養成講座の受講者率は6%（23人÷376名）	3	相違なし
			57	図書館事業	図書館	子どもたちの読書を応援し、読書の楽しさを伝えます。 目標 ・イベントの充実を図ります。 ・ホームページ等を活用した情報発信を行います。 ・ボランティア会員数を増やし、団体同士のつながりを強くするための活動を行います。	・3館合同図書館まつりでは、映画上映会やワークショップを行い親子で楽しむことができました。 ・キラキラ夏休みおはなし会では、プラトンポ作りをし、体験型の事業となりました。 ・英語で楽しむクリスマス会では、外国人講師の招聘で多くの参加がありました。 ・各館の図書館だよりの発行、どんぐり通信の発行、ホームページでの情報発信を行いました。	B				

・子ども・子育て支援事業計画の評価
 A:計画通りに進んでいる。B:概ね計画通り進んでいる。C:計画よりやや遅れている。D:計画より大幅に遅れている。

・教育振興基本計画の評価
 5:想定を大きく上回る状況。4:想定以上の状況。3:想定どおりの成果。2:改善が必要。1:見直しが必要

基本理念	基本目標	基本方針	No.	実施事業	担当課	事業内容	取り組み・成果	評価	教育振興基本計画			相違の理由
									取組・事業名	具体的な到達目標	内部評価	
			58	美術館事業	美術館	ワークショップや造形活動、芸術行事、出前教室、乳幼児の美術ふれあい体験を実施します。	①ワークショップや造形活動 (1) こどもワークショップ (小中学生対象) ・鳥を描いてみよう! 平成29年7月29日 ・不思議な生き物をつくろう! 平成29年7月29日 ・ボックスアートをつくろう! 平成29年7月30日 (2) おとなワークショップ (高校生以上対象) ・オリジナル・消しゴムはんこづくり 平成29年6月17日 ・はじめての水墨画 平成29年9月3日 ・美術史を学ぶ 平成30年3月4日 ②芸術行事 1. 企画展事業 (1) タカハシユミコ布絵展 -布が奏でるハーモニー- 平成29年4月8日～6月4日 (2) 絵の中の小さな旅・国内編 平成29年6月10日～7月17日 (3) 香美アートアニュアルvol.5 -明日をひらく表現- 平成29年7月25日～8月20日 (4) 絵の中の小さな旅・海外編 平成29年8月26日～10月15日 (5) 記憶の街 記録写真は時代を歩く -武吉孝夫 写真展- 平成29年10月28日～12月17日 (6) 3館合同特別展-高知の作家18人展- 平成30年2月10日～3月18日 2. 美術鑑賞教育 ・小中高等学校をのべ23団体受入 ③出前教室 ・香美市内全小学4年生 ・子育てセンターびらびら 平成29年10月6日 ④乳幼児の美術ふれあい体験 たんぽぽ・きっず・あーとびるじえくと(子育て支援ネットワークろばみみに協力) 年11回、展覧会開催時の作品解説及び制作時の指導を行う	B	芸術・文化活動の拠点となる市内社会教育施設の活用促進	美術館 ・各種サークルの活動場所の提供を行い、文化芸術活動の活性化を図るため、4サークル以上の活動を支援する。 ・平成29年度よりアンケート調査を行い、満足度65%を達成するワークショップを年6回以上開催する。	3	相違なし
						①香美市ふるさとプログラムを実施します。 ②山の学習を実施します。 ③講演会、研修会を実施します。			・香美市ふるさとプログラムの実施	香美市の教育資源を活用した学習ができた。龍河洞(100%)、高知工科大学(100%)、吉井勇記念館(40%) 自分の住んでいるところが好き(中3:78.1%)	3	

・子ども・子育て支援事業計画の評価
 A:計画通りに進んでいる。B:概ね計画通り進んでいる。C:計画よりやや遅れている。D:計画より大幅に遅れている。

・教育振興基本計画の評価
 5:想定を大きく上回る状況。4:想定以上の状況。3:想定どおりの成果。2:改善が必要。1:見直しが必要

基本理念	基本目標	基本方針	No.	実施事業	担当課	事業内容	取り組み・成果	評価	教育振興基本計画			相違の理由
									取組・事業名	具体的な到達目標	内部評価	
			59	体験学習	教育振興課 (学校教育班)	<p style="text-align: center;">目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとプログラムの活用を推進し、継続実施します。 ・山の学習を全学校で実施します。 	①「龍河洞ふるさとプログラム」の実施。 ②全小中学校で山の学習の実施。	B	・香美市森の学習 (山の学習)	<ul style="list-style-type: none"> ・香美市森林学習、児童生徒体験(100%) ・香美市の山に登ったことがある。(30%) ・物部川で活動したことがある。(93%) 	3	相違なし
			<p>4. 子どもと家庭の安心の確保 (1) 子育て家庭への経済的支援</p>									
			70	有害情報への対応	教育振興課 (学校教育班)	<ul style="list-style-type: none"> ①保健体育の授業の充実を図ります。 ②道徳の授業の充実を図ります。 ③情報モラル教育を実施します <p style="text-align: center;">目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から、市内全校で系統だった情報モラル教育の実施を目指します。 	①②発達段階に応じた指導を実施。 ③出前授業等を活用した情報モラル教育の実施。	B	情報モラル教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育が実施されている(全小中学校) ・携帯電話やスマホの利用についての家での決まりを守っている児童生徒は小学校で約70%、中学校で約70%以上。(全国学調) 	3	相違なし